

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/9 (2/2との比較)	2/9 (2/2との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	2.35% (▲0.01)	86.48円 (▲2.44%)	+3.0% 2017年3Q	1.25%	住宅着工件数は市場予想を上回るも、失業率は市場予想をやや上回る結果と経済指標はまちまちな展開。原油価格が下落したことが嫌気され、カナダドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	製造業売上高や景況感指数などの発表を予定。債券・為替市場は、引き続きNAFTA（北米自由貿易協定）再交渉や高水準の家計債務、また、原油価格の推移や米国の財政・金融政策などの動向に注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	9.08% (▲0.06)	33.03円 (▲3.50%)	+1.4% 2017年3Q	6.75%	小売売上高は市場予想を下回る結果。中銀は政策金利の引き下げを決定。中銀が想定するシナリオが変化した場合追加的な利下げ可能性を残しつつも、当面は据え置かれると予想。国債利回りは低下。レアルは対円で下落。	インフレ率や議事録の公表を予定。景気は成長しつつも、年金改革法案承認の遅れや10月の選挙を前にした政治的な不透明感の高まりから、債券・為替市場は神経質な展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.66% (+0.22)	5.82円 (▲1.77%)	+1.8% 2017年4Q	7.50%	CPIは市場予想を上回る結果となり、依然として中銀目標を上回る水準。高水準のインフレなどを理由に挙げ、中銀は政策金利の引き上げを決定。原油価格の下落が嫌気され、ペソは対円で下落。国債利回りは上昇。	主な経済指標の発表はなし。引き続きNAFTA再交渉や7月に控える大統領選挙に注意しつつも、債券・為替市場は米国の経済動向や原油価格の推移に追随する展開を想定。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期価格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/9 (2/2との比較)	2/9 (2/2との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.86% (+0.03)	85.02円 (▲2.70%)	+2.8% 2017年3Q	1.50%	小売売上高は市場予想を下回る結果。中銀は政策金利の据え置きを決定。金融引き締めに対し消極的な中銀総裁の発言や、先進国の利上げペースが加速するとの懸念から、豪ドルは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	企業景況感や雇用統計などの発表や、中銀総裁の講演などを予定。先進国の利上げペース加速懸念が豪ドルの売り材料となるが、米国の政策懸念などが豪ドルの買い材料となるため、豪ドルはレンジ内の推移を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.95% (+0.01%)	78.21円 (▲2.75%)	+2.7% 2017年3Q	1.75%	失業率は市場予想を下回る結果。政策金利の据え置きを決定。インフレ率が目標中心まで上昇する時期予想を先送りし、19年半ばまでの政策金利の据え置きを示唆。ニュージーランドドルは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	失業率が改善し、酪農品落札価格も上昇するなど景気は安定感を増しつつあるが、インフレ率上昇の兆しは見られず、早期の利上げは展望できない状況。発表される期待インフレ調査で見方が上向いているかが注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.86% (▲0.03)	13.98円 (▲3.88%)	+1.4% 2017年4Q	0.50%	発表された製造業生産は高い伸びとなったも、2017年10-12月期のGDP（国内総生産）は前回分より伸び率が低下し、コアインフレ率は市場予想を大きく下回る結果。ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	経済指標で景気拡大が改めて確認されたものの、インフレ率が低水準で推移する中、利上げ時期前倒しの可能性は高くない状況。消費者信頼感指数や貿易収支の発表が予定され、景気拡大が加速する兆候が見られるかに注目。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/9 (2/2との比較) 今後の見通し (※4)	2/9 (2/2との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	7.73% (▲0.04)	9.07円 (▲0.49%)	+0.8% 2017年3Q	6.75%	製造業生産は市場予想を上回る結果。ズマ大統領の一般教書演説などが延期し、ズマ大統領の進退について前進が見られたものの、辞任がやや遅れていることが嫌気され、ランドは対円で下落。国債利回りは低下。	小売売上高などの発表を予定。足元の債券・為替市場は大統領の進退問題など政治動向に左右されやすい展開。長期的には財政難など山積みした課題への政府の対応に注目が集まると想定。
	Baa3	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	5.83% (+0.02%)	0.80円 (▲1.94%)	+5.2% 2017年4Q	4.25%	2017年10-12月期のGDPは前回分よりも伸び率がやや加速。外貨準備高も上昇したものの、株式市場が世界的に下落し、リスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、ルピアは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	15日に金融政策決定会合を予定。海外投資家の証券売買フローが流出方向に偏っていることや、ルピア安への圧力などを背景に、政策金利は据え置かれる見込み。13日の国債入札結果にも注目。
	Baa3	 金利低下		 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	7.45% (▲0.06)	1.69円 (▲1.74%)	+6.3% 2017年3Q	6.00%	中銀は政策金利の据え置きを決定。今回よりCPI上昇率予測を公表し、2018-19年度上期は5.1%-5.6%と予想。発表されたCPIは高水準だが、市場予想を下回ったことを受け、ルピーは対円で下落。国債利回りは低下。	鉱工業生産や貿易収支などの発表を予定。中銀はインフレ加速リスクを懸念しているとしつつも、高水準のインフレ率に対して景気を下支えする姿勢を見せており、ルピーは底堅い展開を想定。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 据え置き局面		

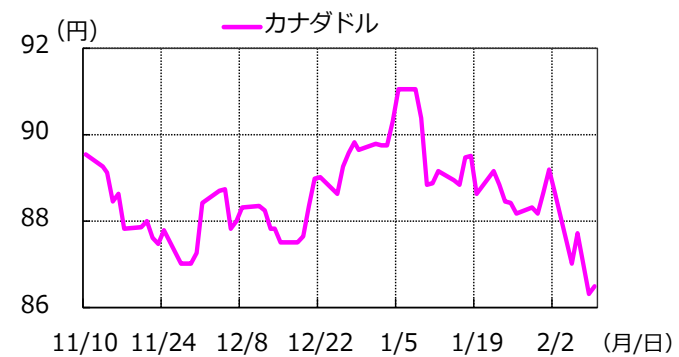
（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

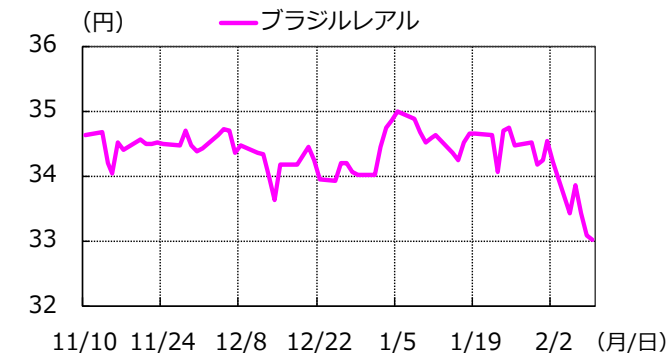
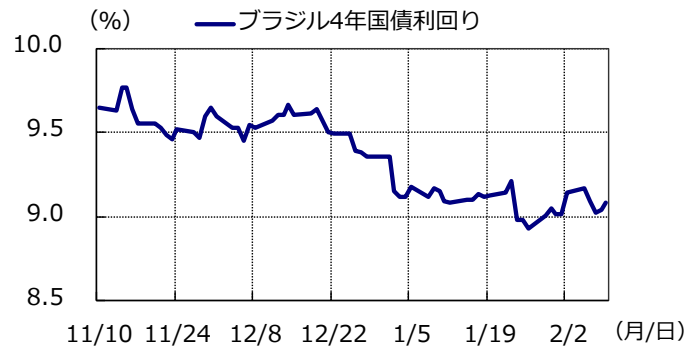
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/10～2018/2/9

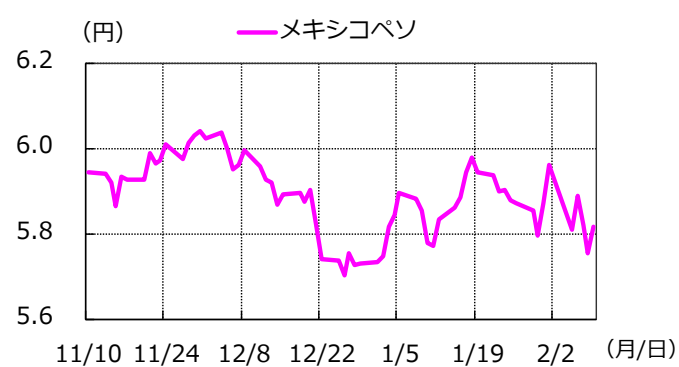
カナダ



ブラジル



メキシコ

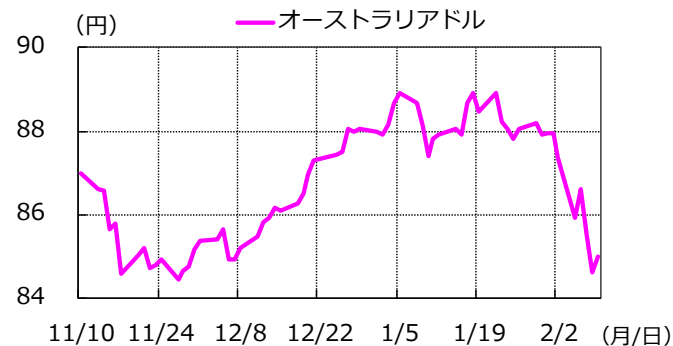


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

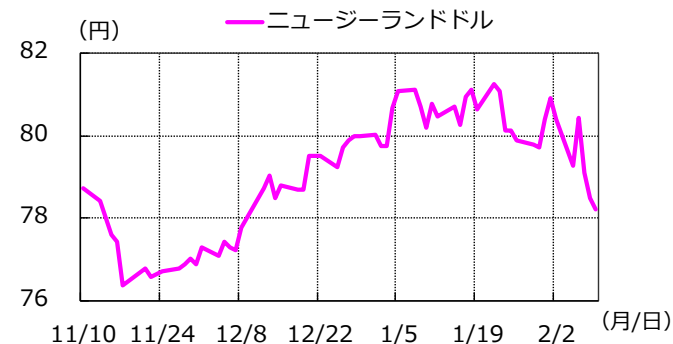
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/10～2018/2/9

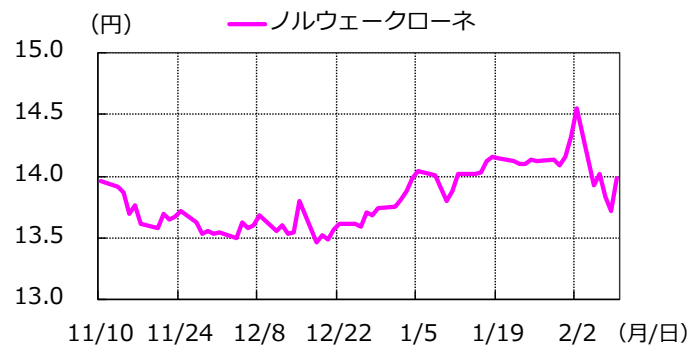
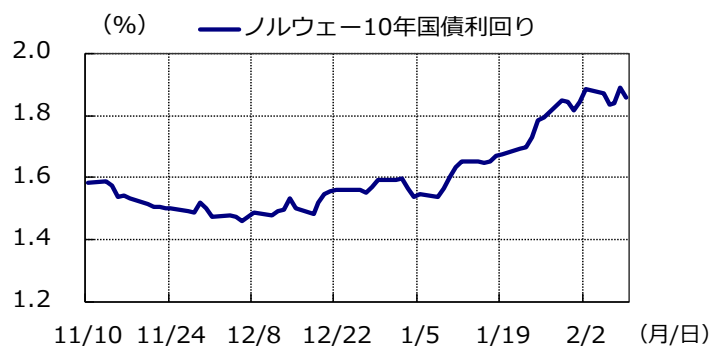
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

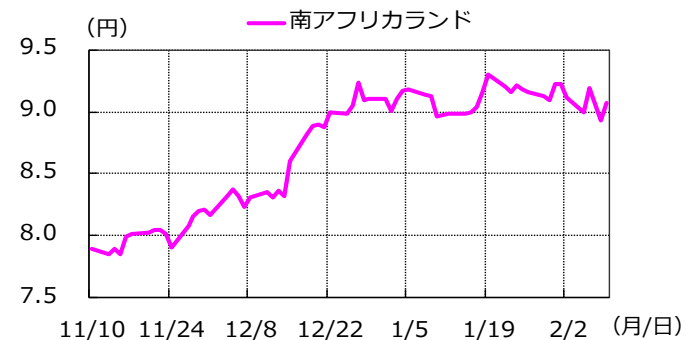


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/10～2018/2/9

南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。